

黒澤 豊さん（平成8年卒）

株式会社 connect 代表取締役／ おおきな木 施設長（介護支援専門員）

◇お仕事の内容を教えてください

「グループホーム おおきな木」と「ほいくえんちいさな木」を併設して運営しています。

グループホームでは、認知症の方を対象に、介護支援専門員、介護福祉士、看護師等の専門スタッフが、24時間生活を送れるためのお手伝いを提供しています。

また、保育園は、北上市認可の小規模保育事業として、0～2歳児のお子様をお預かりしており、ゆったりとした家庭的な雰囲気の中、子どもたちが笑顔になれる「安心・安全」な保育を提供しています。

事業コンセプトとして「高齢者と子どもがともにお互いを必要とする場、昔の大家族の様な大きな家づくり」を目指しており、グループホームには地域交流サロンを備えています。

地域の方々をはじめ、お子様からご高齢の方、身体の不自由な方等、全ての方々にとってお茶の間のようなあたたかい場所でありたいと考えています。



◇仕事を通じどんなことに喜びを感じますか

私たちの施設では入所のことを入居、利用者のことを入居者さんと呼びます。それは、ご自身の意思で生活の場が「おおきな木」へ移ったということを意味します。

入居者さんは自宅を離れ「おおきな木」への入居となりますが、その際に職員みんなで心がけている点が、生活の継続というキーワードを大事にする、ということです。おおきな木へ入居されたからと言って施設での生活に合わせるのではなく、ご本人様の今までの生活歴等を勘案し、その人らしく過ごせる場を提供していくよう心掛けています。お身体の調子も悪く心身共に弱られている方々がおおきな木へ入居され、日々の介護や子どもたちとの交流を通すことにより、徐々に元気や覇気を取り戻され、身体状況の改善が図れた時はとても嬉しく感じます。また、それに伴い家族や親族等周囲の方々の繋がりや関係性がより良好になったというお話をお聞きすることもありました。

◇将来の夢を教えてください

現在は介護、保育というサービス提供を行っていますが、今後それに「障がい」を加えると共に、それを支える「地域」というキーワードを加えることにより、ココに来れば色々な人と繋がることのできる、屋根のある公園のような場所を造っていきたいと考えています。引き続き地域の方々をはじめ、お子様からご高齢の方、障がいをお持ちの方等、すべての方々へお茶の間のようなあたたかい場所の提供を目指していきたいと考えます。

◇専大北上高校ではどんな高校生活を過ごされましたか

「もし、過去に戻れるなら、いつに戻りたい?」と聞かれたら、間違いなく専北時代の高校1年生に戻りたいと答えます。それほど、自分の人生の中で楽しすぎる3年間でした。専北では普通科で部活は吹奏楽部に所属しトランペットを吹きました。毎日の朝練習から始まり、授業を受け、また部活という生活でしたが、自分の所属する文科系部活と野球部等の運動系部活どちらも仲良く、野球応援で吹奏楽部が楽器で応援するとそれに応えてくれる関係でした。今でもクラスの仲間や部活の仲間との繋がりはガッチリです!

◇専北生に伝えたいメッセージは何ですか

専北の優れている所は、色々な人達が集まることです。他の地域から人が集まり、話ができ、自分では気づかぬうちに相手の良い点を見つけることができることにより、それをいつの間にか自分のスキルアップに繋げている点だと思います。これからも沢山の人の人に出会いますが、人と人との繋がりは自身の人生において一生の宝となります。

日々の挨拶を大事にし、最低限、「おはようございます」「ありがとうございました」「ごめんなさい」の3つと、「いただきます」「ごちそうさまでした」の意味が分かる大人になって欲しいです。それを続けることにより、自ずと周りに仲間が増えるかと思えます。

☆取材後記

四十代前半でありながら、ご自身の理想の施設をオープンし多くの方々の笑顔を育てておられる黒澤さん。コロナ禍の厳しい状況の中でも、社長そして施設長として、現場の最前線で爽やかな笑顔で奮闘されていました。(担当：Y)